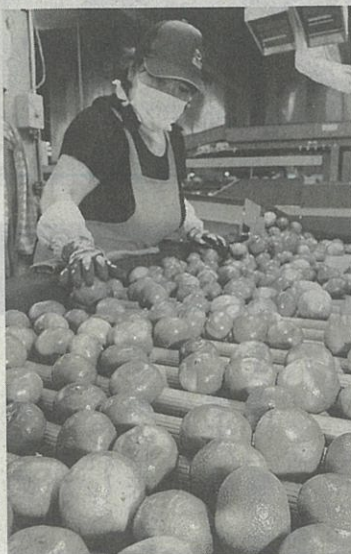


ミカン 出荷スタート

「日南1号」良い出来

静岡・JAふじ伊豆



選果する作業員
(13日、静岡県沼津市で)

【静岡・ふじ伊豆】沼津市のJAふじ伊豆西浦柑橘(かんきつ)出荷部会は13日、同JA西浦柑橘共同選果場で極早生温州ミカン「日南1号」を約45トを初出荷した。作業員が傷や腐敗がないかなど外観を確認。光センサー選果機で糖度や酸度、大きさを測定して出荷した。極早生ミカンは10月末までに「宮本早生」「ゆめ早生」など約900トを、県内や首都圏の市場へ出荷する。今年産の極早生ミカンは、雨量が少なかったことから小玉傾向だが、味が凝縮し、甘味と酸味のバランスがとれた爽やかな味わいに仕上がっている。

同部会の真野高志部会長は「糖度が高く、酸味と甘味のバランスがとれた良い出来だ。フレッシュな味わいのミカンが多

くの方に食べてもらいたい」と話した。極早生ミカンに続いて荷が続く。

「青島温州」「寿太郎温州」と、来年3月まで出荷が続く。

「味一号」本月初売り

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】御浜町にあるJA伊勢三重南紀統一選果場で12日、2023年産「三重南紀みかん」の出荷作業が始まった。超極早生温州ミカンの「味一号(品種)みえ紀南1号」で、14日に初売りを迎える。

今年産は、台風7号の影響が懸念されたが、被害が最小限の抑えられたことに加え、摘果作業やかん水作業などの生産者ら収穫できる。

同選果場では作業員約30人が、2段階の目視による選別と糖酸・腐敗果センサーでの選果、箱詰めなどの出荷作業に追われている。同選果場の榎本和也場長は「台風の襲来もあったが、生産者の栽培努力で、甘味と酸味のバランスの良い味に仕上がっている。多くの消費者に食べてもらいたい」と話していた。



による栽培努力やマルチフィルムを使った水分制御などの成果で、ほぼ平年並みの品質に仕上がった。9月下旬までに約900トの出荷を計画している。中でも外観に問題がなく、糖度10以上、酸度1・1%以下の基準をクリアしたものは「みえの一番星」ブランドで出荷する。

丁寧に「味一号」を確認する作業員